

市内で活躍する
さまざまな団体を
ご紹介します

市民のチカラ



吉祥寺オペラファンタジー代表の小松原利枝さん

子どもから大人まで心が通う 「音楽の場」を創出 吉祥寺オペラファンタジー

子育て中の音楽家たちが「子育てひろば」を通じて出会い、思いを共有したことから生まれた団体「吉祥寺オペラファンタジー」。声楽を学んだ3名とピアノを学んだ3名の合計6名が集まり、コンサートを企画・運営し、出演もしています。

代表の小松原利枝さんは「最初は、子育てひろばが主催する会でコンサートをして終わる予定でした。でもメンバーが集まって初めて練習した時に、『このメンバーならもつと面白いことができる』と強く感じて、団体をつくることにしました」と振り返ります。

現在は「0歳からのファミリーコンサート」と題して、年に数回、小さな子どもと一緒に楽しめるファミリーコンサートを開催するほか、イベントなどにも参加。「オペラは一曲、一場面だけ演じられることも多々あり、ストーリーになっていることを知らない子どもたちが多い」と小松原さん。「ちゃんとストーリー仕立ての舞台をつくった際に、子

どもたちが目を輝かせて物語に引き込まれる姿が印象的でした。でもこれがオペラなんですよね」とオペラが持つ力を強調します。

ただ、オペラだけにこだわらず、さまざまな演出で聴衆を楽しませてもらえます。幼児番組の人気曲「ぼよん行進曲」などを取り入れ、親子が一緒に体を動かし、舞台と客席が一体となる喜びを共有。こうした参加型のスタイルも公演に取り入れています。

将来的には表現する楽しさをより多くの人と分かち合う場を広げていきたいとし、「エネルギーが通い合う瞬間を体験できることが音楽の大きな力。子どもだけでなく多世代に向け、音楽で心を通わせていきたい」と語ります。AIが進化する時代だからこそ、生の声や表現を通じた人と人とのつながりに価値がある——吉祥寺オペラファンタジーは、音楽を軸に世代の枠を超えて心をつなぐ活動を、これからも続けていこうとしています。

吉祥寺オペラファンタジー

大学で声楽やピアノを学んだ6名で設立。2023年9月に武蔵野スイングホールで「0歳からのファミリーコンサート『うたの玉手箱』」と題して旗揚げ公演を開催。以降、武蔵野市を拠点に「0歳からのファミリーコンサート」シリーズの公演を行うほか、高齢者向けに昭和歌謡とオペラを合わせた「歌声コミセン」などを開催。音楽を通じて人と人との心が触れ合う時間を生み出している。



©AICOM. GRAPHIC AND PHOTO

前回公演「ようこそ！魔法の森の音楽会」より。客席も一緒に歌って楽しむ、参加型の童謡コーナー



©AICOM. GRAPHIC AND PHOTO

夢の世界で王子様とお姫様に変身した主人公が歌う、アラジンより「ホール・ニュー・ワールド」